

奉賛会講演集

第五輯

今こそ

永遠

中山靖雄

三重県護国神社奉賛会

三重県護国神社奉賛会主催
第五回公開講演会

今こそ 永遠

財団法人 修養団常務理事

伊勢道場
伊勢青少年研修センター

所長 中山靖雄

平成三年六月二十八日
於 三重県護国神社参集殿



三重県護国神社

明治二年津藩主藤堂高猷公が、津八幡宮境内に小祠を建て、戊辰の役で戦死した藩士の霊を祀る『表忠社』が御創祀であり、以来国事国難に殉ぜられた三重県出身御英霊六万余柱の慰霊および安鎮と感謝の誠を捧げている。

明治七年官祭に列せられ、『官祭招魂社』となる。同四十二年、現在地に移築遷座する。

昭和十四年、『三重県護国神社』と改称。

昭和天皇・皇太后両陛下には、同五十年十月二十七日行幸啓遊ばされ、御親拝を賜った。

平成元年に、御創祀百二十年・御遷座八十年・御社名改称五十年を迎える。

毎年春季(四月二十一・二十二日)

秋季(十月二十一・二十二日)の例祭には、県内御遺族を始め奉賛会員・崇敬者等多数が参列している。

第五回公開奉賛会
三重県護国神社奉賛会主催

今こそ 永盛

三重県護国神社奉賛会
平成三年六月二十八日

目次

今こそ 永遠

今中の心……………	2頁
縁と役割……………	5頁
見える世界 見えない世界……………	10頁
一人称の世界で……………	12頁
麦ご飯の思い出……………	16頁
今こそ永遠……………	19頁

財団法人 修養団常務理事
伊勢道場
伊勢青少年研修センター
所長 中山靖雄

良い縁と悪い縁……………	22頁
動けば思いがついてくる……………	26頁
『癖になりそう』……………	29頁
愛の広がり……………	33頁
タダという事……………	37頁
花それぞれ 人それぞれ……………	41頁
家庭と教育……………	45頁
心に痛みを感じて……………	49頁
朝こそすべて……………	51頁
心を浄化する……………	54頁
ようこちゃんの願い……………	57頁
おわりに……………	61頁



中山靖雄先生 略歴

文部省所管社会教育団体
(財)修養団常務理事

(財)修養団伊勢青少年研修センター所長

生年月日 昭和14年生
 出身地 熊本県菊池郡大津町
 最終学歴 学習院大學政経学部 卒業
 略歴 昭和35年 東京オリンピック
 世界青少年キャンプ日本団役員
 同 43年 メキシコオリンピック
 世界青少年キャンプ日本団役員
 同 60年 } 日本青年会議所
 62年 } 東海地区協議会
 63年 } 青年の船講師団長
 平成2年 }

ビデオ 「共に育つよるこび」
 「意識が行動を変える
 (見る気、聞く気、やる気)」
 PHP研究所

今こそ 永遠

財団法人 修業団常務理事

伊勢場
伊勢青少年研修センター

所長 中山靖雄

今中の心

暫くの間、お話を聴いていただきます。私達の団体は修養団といえます。明治三十九年に出来た団体で、「人よ覚めよ、覚めて愛に還れ。愛を教わるのではなく、おまえの中に愛があるのだ。人よ覚めよ、覚めて愛に還れ。人よ立てよ、立ちて愛に還れ。人間

の中に愛がある、人間の中に誠がある。それをひとつ立ち上げれば、汗になるのではないか」と実行実働、生活と修行をいかにひとつにしてゆくかを考えて、八十五年きたのです。そういう観点から、私自身日頃生活している中から感じている事をお話させていただきます。

人間の生き方や主義とか、生きるという世界は、結局今しか無い。神道でいえば「今中の心」だと思います。「今中の心」とはどういう事かという、例えば、三十歳の人が、九十歳で亡くなると思います。六十年経って、その人が死ぬかといえばそうではなく、今から六十年間、毎日死に続けていくのではないか。生きている事と、死んでいる事は同時進行である。今日まで三十年亡って、これからも死に続ける。でもそんな事を考えてお互い生きられませんよね。今も死に続けているとは考えにくいし、お家に帰って「ああ、今日で六月になって二十八回も死んだな」とは考えません。しかし、命の砂時計は

スタスタ落ちていく。これが本当の世界です。

生きる事を突き詰めていけば、息を吸って吐く、これしか無い。「今中の心」を生活の中に置き代えれば、「人間がおかれた、その時その場所その名の通りの人になってゆく事」ではないかと思うのです。仏教でいえば「随所に主となれ」でしょうし、神道の道でいえば「今中を生きる」です。その時その場でその名の通りの人になって生きる事が、主義と生活をひとつにする事だと思います。

ところが、なかなかその時その場でその名の通りの人になりにくい。それは何故かという、人間の役割というのは、どうにもならない世界で演じられているからです。これを宿命というのでしょうか。私は今日、話をしようとか話したいとかは別に、話をするという役割を持ってここに立たせてもらっています。これはどうしようもない縁だと思えます。

縁 と 役 割

私は今日ここへ来る時、暑さの中でずっと歩きながら、昭和二十年八月十五日の終戦の時を思い出していました。我々が忘れてはいけない事を忘れてしまっている世界がある。暑さによってその事を、思い出させていたのだのです。世の中には偶然は無い。いろいろな縁が自分に何かを気付かせてくれるのだな。暑い事も、寒い事も縁だろうし、その縁が、私自身の中にあるものに刺激を与えて気付かせてくれる。これが縁の世界だなど思いながら、ここへ来させていたのだのです。

考えてみれば、人間の出会いも、全く縁の積み重ねだという気がします。例えば、私の両親が結婚しなければ私は生まれないし、皆様方のお父様とお母様とが結婚しなければ

ば、皆様方もこの世に存在していません。そんな事を考えてゆくと、出会いとは物凄縁ではないか。その中で、どうしようもない役割をお互いが持っている。だから、役割には立派さがないのだと思います。私は立派だから喋らせていただくのではなく、喋るという事で何とか自分の思いが清まれば、これが立派になってゆくのです。喋る立派さもあれば、聞く立派さもある、これが立派さの世界だと思ふのです。

そうすると、役割とは縁によって出来るのだから、立派な世界はない訳です。本日神職の方々も沢山お入りになっておられます。以前、神職の方々に、「神職だから立派なのではなくて、神職の方々がどんな生き方ができるか、これが立派な世界を造るのです」と、生意気にお話した事があります。会社でもそうです。部長さんや課長さんが立派なのではなくて、部長さんや課長さんが、それに相応しい生き方ができた時に、立派さというものができると思うのです。でもあまり身近な人をとらないで下さい。そういえ

ば、うちの課長は内容が伴っていないとか……。 (笑)
人にあてはめて話を聞くと、人の横業になります。自分にあてはめて聞くと自分の横業になります。どうしようもない役割の中で生きてゆく、役割には立派さはないけれど、役割にこだわる事はありません。

我々には、レツテル病というものがあります。特に日本人には、レツテル社会というものがありますから、役割にこだわる。自分の子供の事になると、子供に大学は出してやりたい。大学を出るのが立派ではないのです。大学を出た人が、大学を出たにふさわしい生き方をしているのが重要なのですが、これがどうしてもひとつにならない。高等学校を出て精一杯生きていけば、そこには美しい姿がある筈です。しかし、どうしても肩書きとかにこだわってしまいます。

内容そのものの生き方が大事だと思いますが、なかなか難しい。それにはこんな世界

があるからだと思えます。役割には、必ず陽のあたる役割と、陽のあたらない役割とがあります。例えば、私が本当に勝手な話をさせてもらえるのは、ご立派な皆様が、今日は話を聞く役割を演じているからです。だから、陽のあたる裏側には、必ず陽のあたらないものが、ひとつふたつ存在すると思えます。

この前まで新入社員の研修会がありました。新入社員の前で言ったのです。新入社員は人間の身体でいえば、足の裏みたいなものだ。これ以上、下はないから……。社長さんは何処かと言いますと、顔みたいなものです。顔が割りが良くて、足の裏が割りが悪いと言うけれど、良い所もある。今日お帰りになって風呂に入る時、足の裏から入ります。そして最後まで入っているのも足の裏です。顔なんて一生風呂に入れない。(笑) 私は社長だから、風呂には顔から入るなんて事はありません。

陽のあたるあたらないは、裏表なのです。こうしてお集まりになって「私は若いな」

と思つた方もいらつしやるでしょう。若いと思うのは、自分よりお年寄りの方がいらつしやるから思うのです。こんな言い方は拙いかも知れませんが、生きているという喜びは、死ぬという世界があるからです。死ぬという世界が無ければ、生きるという喜びはありません。苦しいという世界があるから、楽しいという世界がある。これが表裏一体の世界です。ところが我々はどうしても明るさと暗さ、若者と年寄り等と、二つに分けてしまう。明るい生き方の時には、活き活きニコニコと生かれる。暗い役割の時は、ついでにブツブツ言つてしまう。これは当たり前です。大事なのは、暗い役割の時に頑張る事ができるかどうか。明るく生きる事ができるかどうか。これが人間の魅力であるような気がします。

皆様方が、戦後通じてやつてきた事こそが、日本をこれだけ立派に建て変えてきたのです。暗い役割の時に、活き活き生きる事ができる根性と言うか、最後のギリギリのものは人間皆持つていていると思います。それを、どう生活化するかが、なかなか難しい気がします。

見える世界 見えない世界

若いお母様方も居られます。ご主人が早くお帰りになつた時に、「お帰りをさい」と、ニコニコ迎える事は誰にでもできます。大事なのは、ご主人が酔つ払つて帰つてきた時に「あら、ご機嫌さんね」と言えるかです。こんな話をしましたら、「そんな事したら癖になる」と言つた方が居られました。(笑)しかし、この「そんな事したら癖になる」という考え方こそが、私は戦後教育だという気がします。

例えば、親というものは見えない世界です。親が分かるように、母親とか父親という

見える世界にしている訳です。見える世界は、見えない世界をどう思わせるかという役割があると思います。親という名前はあっても、役割としては目に見えません。父親や母親が見える世界です。父親と母親がどう生きるかが、見えない親の世界にこたえる事です。ふたつでひとつですから、ご主人が夜遅く帰ってきた時に「お帰りなさい」と明るく迎えてあげる。これが親として立派な働きをしてゆく事なのです。

消費税とかいろいろ問題がありますが、あれも目に見えない世界です。皆が、少し痛手を感じる世界にならないければ、生き残れない事を我々に教えてくれたのが、消費税とか湾岸戦争ではなかったのでしょうか。

我々は、良い縁悪い縁とか、損か得かという中で、常に生きている様な気がします。

「苦しい思いや、辛い思いがある。けれど、これが自分の命の世界を、大きく活躍させるのだな」という思いを、戦後の時代には持っていたと思います。今やらなければ日本

の国が駄目になる。そんな思いで頑張つてこられたのだと思います。

東西ドイツが、ひとつにまとまり統一しました。私の知人が統一する時に、西ドイツにいており、西ドイツの方々といろいろ話をしました。「あなた方は、向こう十年間は東ドイツを抱いて通らなければなりません。大変な事ですね」と言いましたら、西ドイツの方々はどう言いました。「ドイツ人という同じ民族だから、いつかは一緒になるだろう。どうせひとつになるのなら、我々の時代に苦労しようよ」、これが西ドイツの方々の意見であったのです。「ここにドイツの強さを見た」と、帰ってきた人々は異口同音に言っていました。「どうせ苦労するなら、我々の時代に苦労しようよ」という気持ちは、戦後の日本の心でもあったような気がします。

昔から上の方をカミと言います。だから頭の上にある毛を髪の毛と言います。川の上の方を川上と言ひ、家で一番偉い人をおかみさんというのです。(笑) 人の流れの上へ辿るなら、カミからずっと続いているものが、神の子ではないのか。これが日本人のものの考え方です。西洋では神は人間を造つたもの、人間は神によつて造られたものと言ひます。日本は神惟で、カミからずっと続いている訳ですから、神の子であることに間違ひないです。しかも、これがずっと続く訳ですから、神の子の命は永遠に続いてゆく。これを一人称の世界としてとらえている一番簡単な言葉が、平櫛田中ひらぐしだなかさんがおっしゃつた、『子供叱るな、来た道じゃもの。年寄り叱るな、行く道じゃもの』です。

自分の命の中に、ずっと生き通し生き続けている世界がある。これが御霊の世界です。それが肉体に宿り、有限の世界に生きている。私達がこの有限の世界の中で、頑張る事

が、有限の世界の中に何かを残してゆくのです。木には木の年輪が有る様に、花には花の咲き散る世界が有る様に、人間にもその様な世界が有る。それを金子大栄かねこだいえいという方は「花びらは散る。花は散らない」と言つています。人間の肉体は無くなりますが、魂そのものは無くならない、これが本当の世界だと思ひます。

この一人称の中で生きてゆく為に、親として子供の世界に伝えてゆく。『樞山節考』等の姥捨ての民話は、この日本の思ひを伝えていゝのです。

子供が産まると、母親を捨てなければならぬ。でも母親を捨てる事はできない。夕方までじつと待つていた母親が、堪らなくなつて息子の後ろに回り、肩に手を掛ける。ようやく息子が背負つて、裏山に捨てに行きます。途中で、母親が息子の背の上で、柴の枝をポツリポツリと足元に折つてゆきます。そして大きな岩陰に捨てられ、息子が帰る時、母親が「お前帰り道が分かるか」と言う。自分の母親ですから、振り返つて見て

しまうと帰れなくなるので、二三歩行きかける。母親がまた「お前帰り道が分かるか」と叫ぶ。堪らなくなつて駆け出した時に、母親が追いかけて、「柴の枝が折つてあるから、折れた柴を辿つて帰れよ！」と叫ぶ。これが姥捨て民話の最後にある「道すがら、しおりしおりて折る柴は、我を見捨てて帰る子の為」です。

自分を見捨てて帰る子の為に、柴の枝を折り道標を付けずにはおれない、有限の命を無限に生きる生き方だと思えます。こう言う時、最近の若いお母さん方は、「それはきれいな事です。親が子供を捨てたり、子供が親を殺したりする時代ですから、そんな事は昔の話ですよ」と言われます。

小学校一年生の子供が作った詩で、こんな詩があります。

お母さんに「お母さんの宝物はなあに？」と訊くと

「あんた達や」と言います。

だから僕は「お母さんの命より大事？」と訊くと

お母さんは、僕とお兄ちゃんを抱き締めて

「うん」と答えます

僕はとっても嬉しいです

こんな世界があつて、初めて我々の世界は守られてきたと思うのです。だから我々は、戦後、必死にその時その場で精一杯生きてこれたのだと思います。

麦ご飯の思い出

私の道場では、毎朝麦ご飯を出すのです。先日、研修をやっていると、私の前に座

つた五十過ぎの方が、麦ご飯を一口口にするポロポロ泣かれるのです。私が、「麦ご飯に思い出がありますか」と訊いたら、「私は、戦後、麦ばかりのご飯を食べていました」とおっしゃります。「私も、麦ばかりのご飯を食べていたのですよ」と言う、「先生は麦でも形のある麦だろうけれど、私達はお粥みたいな麦ご飯の中に、芋を入れて食べていたのです」と言われます。「本当にお互い、いろいろな思い出がありますよね。私も麦ご飯を食べると、お袋の事を思い出しますが、あなたは何で麦ご飯を食べて泣かれたのですか」と訊くと、「実は私の家では、ほとんど毎日麦のお粥ばかりでした。小学三年生の時、初めて遠足へ行くのに、母親がおむすびを作ってやらなければならぬからと、近所から屑米を貰ってきました。それを麦のつなぎにしておむすびを作ってくれました。『今日は白いご飯だから、美味しく食べてきてね』と言われ、遠足へ行つたのです。お昼が待ち遠しくて待ち遠しくて、さあ竹の皮を開いて食べようとしたら、そ

のおむすびは麦が多すぎて、把もうとしたら、ポロポロ崩れてしまった。皆がジロツと見るのが何故か恥かしくて、竹の皮に戻して持つて帰ってきました。母親の足元に『こんな嫌や』と、投げつけました。母親は、それを抱きかかえて台所に行った。どうするのかなと思っていたら、それを夕食の時にお茶漬けにして、黙って寂しそうに食べていました。今、この麦ご飯を見て、あの時母親がどんな思いで、あのお茶漬けを食べていたのかなと思つたら、堪らなくなり泣いてしまいました。ごめんなさい、みっともない姿を見せて」。

その時、若者たちが「麦ご飯って珍しいね」と、ワイワイ言つて食べていました。「麦ご飯って珍しいね」と言つて食べる事のできる世の中を生きるのも大事だし、麦ご飯を見て親の苦労とか親の思いになれる、そういう生き方をしてきたのも、また幸せな世界でないかという気がします。

今こそ永遠

苦しみとか楽しみとかが沢山巡ってくるのを、どう生きるか。人間には感情が有りますから、どうしても役割に振り回される。その思いの切り替えをいかに上手にしてゆくかが大事なのです。だから『今こそ 永遠』というテーマにさせていただいたのです。その時その場その名の通りという事をいつも思い続ける。命というのは、いろいろな役割を常に連続してやっている。だから、産まれた赤ちゃんも今だし、死ぬまで今です。年配の方も居られますが、若い時ではなくて、今が一番若いのです。今というのが一番若い。これが今中という事では、今こそ永遠と言えないのではないか。それを言葉で言えば、「その時その場その名の通りの人になりきって生きる」という事ではないのでしょうか。

それを心の法則としてまとめて、

心が変われば 行為が変わる

行為が変われば 習慣が変わる

習慣が変われば 人柄が変わる

人柄が変わった時に 境遇が変わる

そして境遇が変わったら また心が変わる

とやってきたのです。だから、心が変わる事が大事なのです。

今の世の中を見て、いかがでしょうか。心が変わる条件として、我々は、どうも条件や道具だけを揃えて、幸せになろうとしてませんか。財力があると幸せか。財力とは、幸せを創る条件であり、道具でしかありません。健康が幸せか。そうではなくて健康は幸せを創る条件であり、道具にしか過ぎません。例えば、お年寄りがゲートボール等を

やりながら殺人事件があつたり、いろいろ寂しい思いをしています。何故でしょう。健康というのは幸せになる条件ですから、使い方によって幸せにもなり、不幸せにもなります。健康な上で不幸せになっている人も沢山いるでしょう。

私は、時々刑務所へ行かせていただきます。入っている人達は、皆健康です。病気で寝たきりであつたなら、犯罪をしなくて済んだのにと思います。(笑) わりとお母様の中にもあるのですよ。病気で寝ていれば嫁の悪口を言わずに済むのに、達者なお蔭で嫁の悪口を隣近所に言つて廻る人がいます。(笑) この様に、健康なお蔭で不幸せになつた人も沢山いるような気がします。

道具だけを集めて幸せになろうとしている。うっかりすると、我々大人までがそんな世界を求めてしまつています。

良い縁と悪い縁

私は、昔の日本の教えを、もう一回見直す時が来ると思っています。〃袖擦り合うも多少の縁〃とか〃向こう三軒両隣〃とか、人間は縁によつてできるのです。その役割をどうとらえてゆくかです。福岡に仙涯せんがさんというお坊さんが居られました。その方が作られた句です。

よしあしの 中を流れて 清水かな

〃よし〃とか〃あし〃とかいうのは、心の世界です。〃清水かな〃というのが無限の世界で、命の世界です。この〃よし〃というのは、自分にとつて都合の良い縁です。〃あし〃というのは、自分にとつて都合の悪い逆縁といえます。

考えてみると、縁には良い縁も悪い縁も無いのです。例えば、自分に都合の良い天気
が、良い天気なのです。自分が旅行に行く時は、晴れが良い天気だし、ご主人が飲み
に行く時は、どしゃ降りが良い天気だし……。(笑)人間関係にも同じ事が言えます。あ
の人は良い人だと言うのは、自分にとって都合の良い人の事を言い、自分に都合の悪い人
を悪い人と言う。だから、縁には良い縁も悪い縁も無いのです。

お父様が沢山の財産を残して亡くなったのは、ある意味では恵まれた縁です。しかし、
沢山の財産を残した為に、この人の命の世界は余り活躍しないで終わったなら、非常に
貧弱な世界であったと思います。ところが、お父様が働いても働いても返せないくらい
の借金を残した。いくら働いても返せないけれど、精一杯働くお蔭で、命の世界が物凄
く活躍した世界となった。だから表面上の思いと命の世界とは、少し違う部分があるの
ではないか。心が楽しく愉快な世界と、命が楽しく愉快な世界とは、少し違うのではな

いか。苦しさとか楽しさとか、いやだと思ふ事が、命の世界に根を張るのです。よく、
ねばりと言いますが、根を張ってゆく、これが本当は幸せの世界ではないか。無限の世
界で、どんな足跡を残してゆけるかが、人間の本当の喜びであろうと思います。

お子さんやお孫さんと一緒に生活していますと、いつも都合の良い事ばかりでないで
しょうし、腹の立たれる事も非常に多いでしょう。しかし「何かの縁で、我々は一緒に
なったのだなあ。一緒に生きているのだなあ」、そんな思いを大事にして、花咲かせて
ゆくのが、大切な事だと思います。誰でも分かっている事ですが、これを生活化するの
がなかなか難しいのです。

思いが清まると、人間は見たいものを見、聞きたいものを聞きます。例えば、あの人
は良い人だと思えば、良い所が見えてくる、そんな事はありませんか。戦後の教育が
日本の良い所を教えなかった為に、子供達は皆日本の悪い所だけを見ようとする。日本

考えてみると、縁には良い縁も悪い縁も無いのです。例えば、自分に都合の良い天気
が、良い天気なのです。自分が旅行に行く時は、晴れが良い天気だし、ご主人が飲み
に行く時は、どしゃ降りが良い天気だし。(笑)人間関係にも同じ事が言えます。あの
人は良い人だと言うのは、自分にとつて都合の良い人の事を言い、自分に都合の悪い人
を悪い人と言う。だから、縁には良い縁も悪い縁も無いのです。

お父様が沢山の財産を残して亡くなったのは、ある意味では恵まれた縁です。しかし、
沢山の財産を残した為に、この人の命の世界は余り活躍しないで終わつたなら、非常に
貧弱な世界であつたと思います。ところが、お父様が働いても働いても返せないくらい
の借金を残した。いくら働いても返せないけれど、精一杯働くお蔭で、命の世界が物凄
く活躍した世界となつた。だから表面上の思いと命の世界とは、少し違う部分があるの
ではないか。心が楽しく愉快な世界と、命が楽しく愉快な世界とは、少し違うのではな

いか。苦しさとか楽しさとか、いやだと思ふ事が、命の世界に根を張るのです。よく、
ねばりと言いますが、根を張つてゆく、これが本当は幸せの世界ではないか。無限の世
界で、どんな足跡を残してゆけるかが、人間の本当の喜びであろうと思います。

お子さんやお孫さんと一緒に生活していますと、いつも都合の良い事ばかりでないで
しょうし、腹の立たれる事も非常に多いでしょう。しかし「何かの縁で、我々は一緒に
なつたのだなあ。一緒に生きているのだなあ」、そんな思いを大事にして、花咲かせて
ゆくのが、大切な事だと思ひます。誰でも分かつている事ですが、これを生活化するの
がなかなか難しいのです。

思いが清まると、人間は見たいものを見、聞きたいものを聞きます。例えば、あの人
は良い人だと思えば、良い所が見えてくる、そんな事はありませんか。戦後の教育が
日本の良い所を教えなかつた為に、子供達は皆日本の悪い所だけを見ようとする。日本

という国が、どんなに素晴らしい国であるかを見ようとしなさい。人は見たいものを見、聞きたいものを聞く。これが本当の様な気がします。

身近な例でいえば、結婚がそうです。好きな人の良い所ばかり見えたから、結婚したのでしよう。好きな人の良い所ばかり見えてくるから、ご両親に「あの人にはこんな良い所も、あんな良い所もあるのよ」と、一生懸命説得して結婚した筈です。ところが、私が婦人会等で、「ご主人の良い所を三つ言つて下さい」と訊くと、「三つもですか」と言うのです。(笑)「それでは悪い所を言つて下さい」と訊くと、「ええ、幾つでも言えますよ」と答えが返ってきます。(笑)好きな時には良い所だけが見えて、聞きたい所だけが聞こえる。暖かい心で、何か縁があるのだなという受け止め方をすると、良いものを見せていただく世界に出会える。良いものを聞かせていただく世界に出会える。そしてその事を行^ます時に、命に伝わってくる世界に出会えるのです。

動けば思いがついてくる

何年か前の母の日、福井の婦人会の研修会で講演させていただいた時に、こんな事を申し上げました。「母の日というのは、自分が大事にされる日ではありません。自分のお姑さんやお母さんを、大事にするのが母の日です。是非これからでも、お姑さんやご自分のお母様を大事にする、愛の種まきをして下さい」そうしたら後から主催者の方から電話がありました。「今日は良い話を聞かさせていただきました、ありがとうございます。私にとつては最高でした。考えてみたら私の母も、お姑さんも亡くなってから何年にもなる。ああそうだ、お墓参りに行こうと思ひ、長女を連れてお墓参りに出かけ、きれ

いに掃除をして帰ってきました。夕食を済ませ、何気なくテレビを見てみると、娘が『お母さん、今日は母の日だから、お風呂ぐらい一番に入りなさいよ』『お父さんがいるから、先に入ってもらって』と答えると、『プレゼントも貰ってないのだから、お風呂ぐらい一番にもらってもいいでしょう』と、後ろから押されるように風呂場に入られました。娘も後から入ってきて、『後ろを向きなさい』と背中を流してくれました。『あまり変わった事をしないでよ』と言うと、娘が背中を流しながら、『お母さん、生き仏の墓掃除よ。死んでからでは、こんな温かい墓石は流せないのだからね』、私は顔を洗う振りをして涙を隠すのが精一杯でした。こんな嬉しい母の日はありませんでした。誰かに聞いて貰いたいと思いましたが、誰に言っても自慢話になってしまいそうで、先生だったらと思いい、電話させていただいたのです』と言われました。

ささやかな事かもしれませんが、何か行動を始めると回転運動が起こるのです。思いが変わった時にやる事が変わる。やる事が変わった時に習慣が変わる。習慣が変わった時に人柄が変わる。人柄が変わった時に境遇が変わる。人格は、変換的に変わるといふのが原理原則です。生きている以上は必ず動いている。必ず変化する。これがそれではないかと思えます。

それで、私は若い方々と研修会をやる時には、「なる程その通りだと思った時には、先ず動こうじゃないか」と言っています。人よ立てよ、立ちて汗に帰れ。思いは後からついてくる。最近は何かが分る世界がある。雑巾を持ってば、雑巾を持った気持ちになる。ほうきを持ってば、ほうきを持った気持ちになる。それで私達は研修で、伊勢

神宮の前をお掃除させていただいたり、いろいろな事をさせていただくのです。朝、目が覚めたら起きたほうが良いのは分かっているけれども、なかなか起きにくい時がある。そんな時は布団を蹴飛ばせば良いのです。

『癖になりそう』

襖被等もそうだと思います。私の道場では、五十鈴川で襖をやっています。一月の雪の降る時に、アメリカのタイム誌から、襖の取材に来ました。水に入る時に二人のアメリカ人だけ入らないというのです。どうしてかと訊くと『水に入ったところで人間はきれいになると思えない』と言うのです。私は、昔から聞いていた『汚い水が海へ流れて掻き交ぜられて蒸発し、蒸気となって雲となり、雨となって降ってくる時にはきれいに

なっているのではないか。これが宇宙の浄化作用だ。日本人はその事を感じ、〃人間には何か罪汚れがある。その罪汚れを、水に入る事によって清めて貰う世界があれば〃と素朴に考えたのが、襖だ。人類が誕生して以来、大便や小便をしているが、大便の島や小便の池がないではないか』と説明しました。汚い例えで恐縮ですが、こんな例え話の方が分かりやすいと思うのです。

この前も、台湾に行った時に、米の問題を訊かれました。日本のお米と台湾の米はどう違うのかと。違いますよ、絶対に。日本の水は飲める水です。飲める水で作られたお米と、飲めない水で作った米は違う筈だと思うのですが、いかがでしょうか。栄養がどうか、何がどうか言うよりも、米の命の世界が違うような気がします。また、こんな例えが一番分かり易いのです。

こんな説明をしたら、「それは日本人の考え方だから、日本人だけがやればいい」と

彼が言います。「入らなければ、本当の記事が書けないから、行くだけ行こう」と連れてきました。天あまの鳥船運動とりふねでエイエイとやったのですが、服を脱ぎません。「裸になれよ」と言っても、「日本人だけやれば良い」と答えます。「水に入らなければ、入った時の気持ち分からないよ」と言うと、手だけ川の水に浸けまして「大体分かった」

(笑) これではいけないと思い、「塩は辛い。砂糖は甘い。舐めた事のない人へ、あなたはどの伝えるのか。砂糖の甘さは舐めてみないと分からないのだ。水に入った後の爽やかさは、入ってみなければ分からない。裸になって一緒に入ろう!」と言ったら、びっくりして入ってくれました。水からあがってきて、どうだと尋ねたら、「気持ちいいね」。明日の朝もう一度やろうかと言うと、「癖になりそう」と言っていました。(笑) その後、夕刊フジという新聞に、私の道場の事を『癖になりそう』という記事で五日間程書いてくれました。

水に入る事によって、清まった思いになる。これも、動けば思いがついてくる世界です。水の中に入った時には、何も無い状態で、頭空っぽスッキリしている。それが、思いを清めていくのではないか。形が心を正し、心が形を美しくする、二つでひとつの世界ではないか。勿論、思いが行為となるのだから、思いの世界が大事です。そして、やると思いがまたついてくる、この相関現象があるのです。人間として生まれた以上、そういう縁を受け止めて行きようじてゆく事が大事なのです。

愛の広がり

生きているという事は 誰かにお世話になっている事

生きてゆくという事は それをお返ししてゆく事

生きている事は、誰かに世話になっているのに間違いないし、生きてゆく事はそれを返してゆく世界ではないのか。私は今年の年賀状に、「ありがとうの度に愛が広がり、ごめんなさいの度に愛が深まってゆく」と書かさせていただきました。本当にいろいろな方のお蔭で、今の私があるなど思った時に、愛が広がってゆく。本当に誰かにお世話になりながら生きてゆく。これが分かれれば分かる程、愛は深まってゆくのです。今の世の中、愛の広がりが、どうも狭くなってきました。

こういう捉え方をすると失礼かもしれませんが、女性の方の愛はどうしても生命を守る世界ですから、深さは深いですけれども悲しいかな広さが無い。そこへいくと男の愛は、女房子供を養う攻めの愛ですから、深さはそう深くはないけれど幅は広いです。中には広すぎて困ってしまう人もありますが……。(笑)

こんな事はありませんか。たまに子供が後片付けの手伝いをしてくれると、パーンと皿を割ったりします。その時に母親がすぐ言うのは、「何割ったの?」。「何割ったでないだろう。怪我無かったか訊くのが本当だろう。皿の買換えはあるけれど、息子の足の買換えは無いのだから」。それが本当だろうけど、つい「何割ったの?」そして行ってもしようが無いのに、わざわざ側まで行って「どれ割ったの?」と訊きます。「どうせ割るなら、こつちの方を割ってくれば良かったのに」。(笑)そこへいくと父親は、「怪我をしない様に注意なさい。ちゃんと掃除をしなければ、後の人が困る

よ」これが男親です。ところが最近、父親までが「何割った？」と言う様になって
います。

私が高校の時に、山登りで遭難し、十一日間程行方不明になった事があります。本当
に助からないと思っていたのに救出され、無事熊本駅に帰ってきました。大勢の出迎え
の人の中で、校長先生がお礼の言葉を始めた時、一人堰を切って走ってきたのが私の母
親でした。私の膝小僧を把んでホームに土下座し、「足がある！足がある！」と足を揺
さぶって、ワンワン泣くのです。消息を断って一週間目あたりから、葬式の段取りをす
る程、本当にもうダメだとあきらめていたのです。幽霊だったら足がありませんから、
足を把んで泣いたのです。校長先生の挨拶が終わった瞬間、後の六名の母親も飛び出し
てきました。あんな時、一人がやった事と同じ事をするもので、後の人も「足がある！
足がある！」と、熊本駅で大合唱でした。(笑)その時、胸がジーンとしまして、隣の

奴に「お袋だけは、不幸せにはしまいぞな」と言ったものです。フツと見たら、親父が
背伸びして、ニタニタ笑いながら見ているのです。母親が「足がある！」と泣いて喜ん
でいるのに、父親はニタニタ笑っている。あんな薄情な父親はいないなと思っていまし
た。

ところが、その日の夕食だったか、翌日の朝食の時だったか覚えがないのですが、親
父が後ろを通り過ぎながら「みんな一緒に助かって良かったな」と一言ポツリと言って、
私の頭をポンと叩きました。何故かその時、涙が止まらなかった事を、今でも思い出す
のです。後になって考えると、あの時のお袋には私しか見えず、「足がある！」という
世界しかなかったのだと思います。その時親父は、「一緒に登った仲間の中で、誰か一
人でも助からなかったら、どんな辛い思いでここにいたのかな。残るも地獄死ぬも地獄、
そんな世界があったらどうな」そんな事を思い、あの時親父は、ニコニコ笑って見てて

くれたのではないか、という気がします。

タダという事

人間は自然が造つたものです。だから自然が造つた人間が生きる為に、自然は必要なものを、全部タダで我々に与えてくれます。水や空気、太陽の光全部タダです。自然は生きとし生けるものに「さあ生きろ！」という世界で包み込んでくれているのです。この事を言うと、「水道代は払っていますよ」と言う人がいます。(笑)水代と水道代は別です。水道代というのは、手間賃とか水道局の人に払うのです。

我々が生きてゆく為の衣食住は、全部タダなのです。着ている物はタダ、食べる物はタダ、住む家もタダです。馬鹿な事を言うな、金を払わなければ着ている服も買えない

じゃないかと思うかもしれませんが。しかし、我々が払うのは洋服代として洋服屋さんにお金を払う。洋服屋さんは布屋さんに払う。布屋さんは糸屋さんに払う。糸屋さんは羊の紡ぎ賃を払う。羊の毛は大自然が造つてくれたのだから、タダでしょう。それが化学繊維であれば、石油・石炭から出来るのだから、これもタダです。食べる物に関しても、お米代はお米屋さんとお百姓さんに払うのであって、田んぼにお金を入れる人はいません。苗木を大木にするのは大自然です。我々が払うのは、材木の切り代とか運び賃とかで、木そのものはタダです。

こう考えていくと、我々が生きていく為の物は、全部タダである。そうすると、ありがとうの度に愛が広まる。タダで我々を育ててくれる世界があるのに、ああ足りない自分だなどと思う時、ごめんなさいの度に愛が深まってくるのです。

小学校五年生の倫理の教科書に、『進君の勘定書』という話を載せていただきました。

進君という小学校五年生の子供が、「お母さん、手紙を置いていくから呼んでおいてね」と言つて学校へ行きました。何だろうと思つて、お母さんが封筒を見ると、上書きに『請求書』と書いてあります。五年生の息子に請求書を貰つて、いささかビックリしました。自身には何と書いてあるのかなと読むと、

- 一、お庭の掃き賃 十円
 - 一、ポチの散歩代 十円
 - 一、妹の子守代 十円
 - 一、お父さんのタバコ買い賃 十円
 - 一、お母さんのスーパ一の駄賃 十円
- 合計 五十円
- 右 請求します母上様へ

と書いてあります。こんな事も書ける様になつたのだなと思ひ、五十円を請求書に乗せて、「進さん、請求書通りよ」と子供に渡したのです。そうすると子供は、請求書通りとおつたから、これから皆請求してやろうと思ひ、古いノートを引っ張り出し、線を引いて用意しました。

明朝お母さんが、「進さん、お母さん手紙を机の上に置いたから、良く読んでね」と言うので、何だろうと思ひ、部屋へ帰つてみると『請求書』と書いてあります。僕がせっかくなりに五十円取上げたのに、お母さんは何と云つて取り返すのかなと思ひ、おそろおそろ開いて見ると、

- 一、生まれてこれ迄のオツパイの代金 タダ
- 一、あなたが汚したおしめの洗濯代 タダ
- 一、学用品代 タダ

一、洋服代

タダ

一、生まれてこれ迄の一切の世話代

タダ

合計 全部

タダ

進さんへ お母さんより

と書いてありました。その瞬間「参った！僕がお母さんにやったのは、全部十円。お母さんが僕にやってくれたのは、全部タダ」。「お母さん、僕も今日から全部タダにするからね」と言つて、学校へ行きました。これが本当の世界ではないでしょうか。

花それぞれ 人それぞれ

本当に自分が高まれば、知るといふ世界が深まっていく。知る事の深さが、愛する事への道です。多少苦勞があるけれど、いろいろな事を精一杯いただいて今中の心で行じてゆく。これが御霊の心が本当に喜ぶ世界なのだと分かつた時、いろいろな事が受け止めることができる。いろいろな縁をいただく事ができる。知る事の深さは、愛する事への道だ。知る事が深くなればなる程、愛する事が深くなってゆくのではないか。我々は、もつと自分の命という事を知りたいし、自分の存在そのものを大事にしたいのです。

私は若い頃、後藤静香こうとうせいこうという詩人の詩を、よく口ずさんでいました。

私は確かに生まれた 何の為に生まれたのか

私は確かに生きている 何をすればいいのか

私は確かに死ぬ 今のままで死んでいいのか

この詩に非常に心を打たれました。ここまでくると、何かをやらずにおられない、やらせてもらわずにおられない。本当の事が分かった時に、そんな思いの高まりを感じるのです。

皆様方に育てて貰いたい事は、これからの若者達がそれぞれの道を通つていき、自分が分かると自分自身の花を探します。だから若者に、それぞれの花を咲かせる様に、育てて貰いたいです。それが、比較の無い絶対的な世界なのです。

花それぞれ 人それぞれ それぞれに咲く

今を喜び そこで光る

その時その場その名の通りの人になった時に、天が良しとして、花を咲かせて下さるのではないのでしょうか。

我々日本人は、花の散り方に対しても繊細ですよ。桜は散るといふけれど、梅は零

れるというでしょう。椿は落ちるといい、牡丹は崩れるといいますよね。それから、菊は「菊花舞う今日この頃」といいます。花の散り方ひとつを見ても、これぐらい繊細な日本人が、割と人間だけは、良い人悪い人だけで済ませてしまいます。良いお嫁さん悪いお嫁さん等と決めてしまう寂しさがありません。もつと何か違うところがある様な気がします。そこを育てるのが、我々の勤めである様な気がします。

自然が造った物には、同じ物はひとつもありません。こうしてお集まりになった皆様方の中にも、ひとつも同じ顔はありません。植物の葉にも同じ葉は一枚も無いそうです。ね。あれは全部デザインが違うそうです。蟬の羽根の模様も、全部違うそうです。トンボや蝶々の羽根、生きとし生ける物に同じ物がひとつも無いというのは、どういう事かという、「天下一品」という事でしょう。お母様方もお見えになりますがお帰りになられましたら、ご主人の顔をジッとご覧になって下さい。これが自然が造ったかけが

えのない物なのだなど。ご主人が変に思つて「何かついているのか」と訊いたら、「いえ、天下一品!」(笑) かけがえのない天下一品、間違いなく天下一品、だから人それぞれが全部、天下一品なのです。

家庭と教育

花だと我々も言えるのですよ。レンゲの花も良いけど、スマイレの花も美しいと。でも自分の子供の事になると、どうしても大きい花を咲かせたいと思つてしまうのです。この間も私の子供が、通知表で1を取ってきました。何かしょぼんとしているので、どうしたんだと訊くと、成績が1だったと答えます。「もつと活き活きして帰つて来い。おまえが運動会で一等走つても八等走つても、お父さんは応援するよ。通知表で5を取つ

てきても、1を取つてきても応援するから、もう少しピリ振りの良いピリになれ」と言いました。「ピリ振りの良いピリって何ね」と訊くから、「おまえのお蔭で四十人が助かつたじゃないか」。(笑)

学校の成績が良い悪いといつても、これは役割ですから余り考えない方が良いと思います。今度通知表を持ってきた時には、是非皆様方も、良い方から見えて下さい。母親というのは潔癖感があるのでしょうか。どうしても百点満点で見えるのです。だから子供が八十点取ってくると、たいがいの母親は言うのです。「あと二十点で百点だったのに、惜しいね」そこへゆくと父親は「八十点良かったね」と言うのです。子供が九十点取つてくると母親は、「アラ後一問だけ、惜しかったね。もう少し気をつければ百点じゃない」。百点取つてくると、お母さん方は何て言うかというところ「アラ、問題が易しかったのね」とか、ひどい人になると「あんたが百点取つてくるくらいだから、いっぱい

百点がおったやろう」。 (笑) これが子供のやる気を無くしてゆくのです。

でも何と言っても、家庭ではお母様が一番です。「母ちゃんただいま」と帰ってくる子供はいますが、「ただいま父ちゃん」と帰ってくる子供はいはせん。「ただいま、母ちゃん。母ちゃんはどこいった？」とは訊きますが、「父ちゃんは居らんね。良かったね」てなものです。(笑) だから、お母様方が明るくなる事が絶対です。それが何気なくさりげなく、本当に一コマ一コマ、子供の世界を変えてゆくのです。

この間、幼稚園の子供会に行った時、三才児といいますが年少組です。子供が一輪差しの花を「ご苦労ちゃま。ご苦労ちゃま」と言つて替えているのです。三才の子供が「ご苦労様の意味が分かるのかな」と思ひ、「お嬢ちゃん、今何を言つていたの」と尋ねると、「ご苦労ちゃまと言つたのよ」と言うから、「関心だね」と頭を撫でたのです。何か変な顔をして見ているので、「なー」と訊くと、「だつてお母さんがいつも言つて

るもん」。この三才の子供には、まだご苦労様の意味が分からないと思います。しかし、小学校に入つてご苦労様の意味が分かつたら、どんなに心の暖かい子供になるのかなと思つた時、この子のお母さんは素敵だと思ひました。何気なくやっている一コマ一コマが、教育の世界ではないでしょうか。

相田^{あいた}みつをとという人の詩で、こんな詩があります。

床の間だけでは 家は出来ないだよな

これが本当なのですが、やはり我々は自分の子供を床の間にしたい。そんな自分の醜さがあるから、床の間だけでは家は出来ないだよな」と言う。本当の世界を良くつかんでいかなければ、冷たい世界を作つてしまいます。本当の事が分かつた時に、その枝葉までが、皆美しくなる世界があります。

心に痛みを感じて

私の道場へ、日立製作所の方々がずっと研修に来ておられますが、嬉しい話を聞ききました。施設の子供たちに何か寄付をしたい。給料から天引きするのはあまり能が無いから、古本市をやるう。古本市をやつて、古本を買つて貰つた浄財を寄付すれば物も生きるし、心も生きるのではないか。一人の方が、家に帰つて子供三人を集め、「お前達が今一番大事で、一番面白いと思う本を三冊ずつ持つてきてほしい」三人の子供は三冊ずつ持つてきました。「悪いけどこの本を、お父さんにくれ」と言つたそうです。「お父さんが、一番大事で一番面白い本を持つてこい、と言つたから持つてきたけれど、これは大切だからあげられない」と皆が言います。「実は、明後日、古本市をやつて施設の

子供達に、その収益を届けるのだけれど、お父さんは、お前達が読んでもあまり面白くなく、読みたくもない本を売つて、そのお金を送るのはとても気が引けるんだ。お前達が面白くて仕方がない本を売つて、喜んで貰うお金を送りたいと思うのだが、どう思う」。子供達は、「それでは仕方が無いね。あげるわ」と言つたそうです。ところが所詮子供ですから、寝る前に相談しました。「どのみち欲しい本だし、買い戻さなければならぬ」。新品で買うより、明後日の古本市で買った方が安いだろうね」。(笑)それで三人は二日後に、九時から始まる古本市に八時半から並んで、三人が三冊ずつの本を買い戻したそうです。

私はこの話を聞いて、胸にジーンとくるものがありました。これが今一番大事な事ではないのかな。多少の心の痛みとか、心が傷つき少し痛い思いをする位に何かをやらなければ、人類として生き残る世界が無いのではないか。それを、天は我々に望んでい

るのではないでしょうか。だから、辛い事苦しい事が沢山起こって当たり前だと思いません。

私は、自分が完璧でない事が分かった時に、人の完璧でない部分を許せる事ができると思っています。これが共同社会ではないでしょうか。完璧な人間なんてひとりも居ないから、皆助け合って生きてゆく様になっていく。だから足りないものを補い合う。それが愛の世界でないのでしょうか。うっかりすると、育てる事と裁く事が一緒になってしまっている様な寂しさがあります。だからそんな世界があればと思います。

朝こそすべて

いろいろきれいな事を申しましたが、それならば具体的にどうしたら良いのかを、一つ

二つ申し上げます。朝を爽やかにしましょう。毎日が誕生日です。だから、明日の朝から、爽やかに起きていただきたいと思えます。私は毎朝、簡単な禊をやっていました。うちに研修に来た人にも、毎朝コップ一杯の水を飲んでもらい、これが禊だといっています。人間の細胞と言うのは単細胞です。体の中が内皮で表面が外皮、お尻の穴の内が内皮でお尻が外皮、皮一枚袋でつながっているのです。だから、禊は外から体を清めますが、コップ一杯の水を飲めば、内側が清まる。それは外皮と内皮が一緒だからで、禊の原理だと思えます。乾布摩擦や、冷水摩擦が何故健康に良いのかというと、外皮を強くする事によって、胃壁腸壁内臓の内壁を強くするからです。皆様方には長生きをしていただきたい。どうせ長生きするなら、元気で長生きし、人の役に立つ様に長生きして欲しいのです。だから明月の朝、コップ一杯の水を飲む事から始めたらと思えます。

何かをやらなければ、思いが変わらない。思いが変わらなければ、やる事が変わらな

い。やる事が変わらなければ、習慣が変わらない。習慣が変わらなければ、人柄が変わらないから、何か始めなければと思います。これは健康法です。だから是非、明朝からコップ一杯の水を飲みながら、お母様方には「ああ、私は天下一品」と。(笑) コップ一杯の水で朝を爽やかに、そして少しでも人の為何かしましょう。

人間が、いろいろなものに出会う事は、出会いを通して自分に会う事です。〃出会い〃というと、人に出会う気がしますが、本当は自分に出会っているのです。あの人は嫌だなど思うのは、嫌な人に出会っているのではなくて、嫌だなど思う自分に出会っているのです。

私は、昭和四十年八月十二日に、大阪に新しくお行場が出来て以来、毎年、そこでお行をさせていただいております。その松本草垣女史に、「出会いとは人に出会うのではなく、自分に出会うのです。嫌なものを見た時は、ごめんと謝るのですよ」と教えて

いただきました。例えば、人の嫌なものが見えた時、嫌なものを思う自分ごめん、と命の世界にお詫びをいれておくのです。この事を、二十年近くずっと続けました。お蔭であまり嫌な気持ちが出なくなりました。嫌なものを見ても嫌と思わず、自分の中にもこんな思いがあるのかも知れないな。ひよつとしたら、自分もこんな事で、人を傷つけているのかもしれないな。こんな事を、スムーズに思える様になりました。そうすると、朝、物凄く爽やかに、起きれる様になったのです。

心を浄化する

もうひとつは夜の世界です。夜が裏で、朝と昼が表で、これがひとつで一日だと思のです。だから、裏の世界がきれいになったら、表の世界もきれいになる。裏がきれい

にならなかつたら、表の世界もきれいにならない。夜寝る時は、御霊に一切を任せて寝るでしょう。寝ながら考えている人はいません。もし、寝ながら意識があれば、イビキをかいているから止めようとか、歯ぎしりをして迷惑かけているな……。でも、そんな事はありません。皆、歯ぎしりイビキをして寝ていれるのは、心が空っぽだからです。命に全部任せているのです。だから、その命を任せている時に、スッキリしたきれいな思いでやすむ。今日いろいろいな事があつたけれども、力足らずでごめんなさい。親は、私にもっと大きな仕事をして欲しかつたのだけれうけどごめんなさい。出会いを生かすきれずにごめんなさい。有限の世界が無限の世界に、お詫びをしてやすませてもらう。そうすると無限の世界が、明日の昼の計画をきれいに整えてくれる。これが、自然の生業の様な気がします。だから、夜おやすみになる時は、スッキリした思いでおやすみ下さい。

世の中は、責めても良くならない様な気がします。だからできれば、人間濾過器というか、そういう思いを自分自身の中で、どう浄化してゆけるか。本当に我々の力が足りないからすまないな。そんな思いを、自分に向けてゆく人が増えただけ、暖かい思いが広まってゆく気がします。今は、自分が正しく相手は正しくない、そういう責める世界が沢山あります。しかし、相手の悪さは自分の中にも有るのだという様に、嫌なものを抱き抱えて、きれいにしてゆこうという人の思いが、広がれば広がっただけ、世の中が良くなつてゆくと思います。これが、日本の一人称の世界ではないでしょうか。

非常に平凡な言葉ですが、人は憎いものではない。記憶が憎いのだ。記憶が消えれば憎さも消える。これが本当だと思います。命は憎さを求めません。心が憎むのです。最初に出会った時から、憎い人は誰もいないのです。あの人はこんな事を言っていた、

あんな事をしたという記憶が憎しみを作るので。その事を忘れれば、憎しみも何も無い。命に帰れるのです。だから、心の世界を浄化する事によって、命の世界に帰る事ができる。夜きれいに整えて、朝爽やかな一日にする。この二つが、私が今、自分自身にやっている平凡な事です。それによって、本当に爽やかな一日にさせていただいています。これは、私が実際にやっている事ですから、嘘ではありません。

ようこちゃんの願い

私の道場では今、沖縄、岐阜、福島とで、重度障害者の方々とキャンプをやっています。障害児の方一名と、研修の方四名と、リーダー一名の六名で、ひとつのテントを作

るのです。私のテントには、十七才でおしめの外せないようこちゃんが、お母さんに車を椅子を押されて参加してくれました。

夏休みでしたので海や空がきれいです。それで、皆でお星様に願いをする七夕をしよう、という事になりました。私はようこちゃんに「ようこちゃん、皆でお星様に願い事をするのだけれど、何かお願い事はないですか」と訊いたら、喋れない口で「無い」と答えます。「こんな事できたら、あんな事できたらと思う事、何か有るでしょう。言つてごらん」と言つても、「無い」。お母さんが「そんな可愛げの無い事を言わないで、何か素直に言いなさい」と怒ると、「無いもん」と喋れない口を尖らせて言います。悪い事訊いたのかなと思ひ、「ようこちゃん、後でまた訊くから、考えておいてね」と言うと、「うん」と答えました。

夕方、外へ出ると、他の十七張りのテントでは、皆竹竿を用意して、飾り付けを始め

ていました。「ほら、他のテントは、皆飾り付けを始めたよ。うちが一番遅いから、何かお願いを言つて」と言つても、「無い」。仕方無いから、私はこう言いました。「もし私にできる事が有るなら、やらしてもらおうよ」。車椅子を押している手をトントンと叩きます。車椅子の前に廻つて「なあに」と、喋れない口でこう言いました。

「本当に書いてくれる」と言うから、「書かせてもらうよ」と答えると、私が思つてもみなかった事を彼女は言いました。「お母さんより一日だけ早く死なせて下さい」と書いて」。十七才の女の子にとって、何が一番心配かと言うと、もしお母さんが死んだら誰が自分のおしめを替えてくれるのか、その事が一番気がかりだったのです。だからお母さんより一日だけ早く死なせて下さい」と願つたのです。

私が短冊に書いて飾ると、炊事の当番をしていたお母さんがとんでこられました。「ようこが先生に何か言つたそうですね。何て書いたのですか」と尋ねるので、「あそこに

飾りましたから、見に行つて下さい」と言うのと、見に行かれました。ジツとそれを見つめて、最後には手を合わせて拝んでおられました。そして、私の所に来て「先生、すいませんが、私も書かせて貰つていいですか」とおっしゃるから、「どうぞ」と言いますと、こう書かれました。「もし神様がいらつしやるなら、贅沢かもしれませんが、娘より一日長く生きさせて下さい」。二つの短冊を掛けて、ジツと手を合わせて拝んでおられました。

私は、自分も子供も健康ですから、ようこちゃんの気持ちもお母さんの気持ちも良く分かりません。けれども、最初からそんな大らかでは無かつたのだと思います。何でうちの子供が……という気持ちがあつたのだと思います。だけど本当にどうしようもない世界で、どう生きるかといった時に、光が見えたのではないかという感じがするのです。命の世界は、力があるから重荷を背負えるのではなくて、重荷を背負うから力が

出てくる、というのが本当のような気がしました。

そのようちゃん、喋れない口で最後に私に言ったのは、「先生、私が身体が不自由なのは、神様が私ならきつと苦しみに耐えられると思っただからで、私は神様に選ばれたのね」。そして、振れない手を一生懸命振りながら帰っていきました。

おわり

我々一人一人も、神様に選ばれてきたのでしようし、我々の子供や孫も、神様が選ばれて生まれてきたのだと思う時、それを育ててゆく事が大事なのだと思います。こんな事を若者と一緒に考えながら、行^まじてゆくと、僅か百名が三泊四日のキャンプをするだけで、何かをやるうという気に変えてゆく世界があるのです。

私はそれが、伊勢の神宮・伊勢の「気」だと思うのです。皆が、清らかになりたいた清らかになりたいと思ひ、昔からお参りにやって来た伊勢の空気が、人間の命をきれいにしてゆくのではないでしょう。それならば、この護国神社を始めいろいろな神社へ、皆が思いを込めて参らせていただく事によって、参拝された方々の命を清めていく世界があるのではないのでしょうか。我々自身が本当に清らかな思ひで、参らせていただき、そして清らかな思ひで帰らせてもらう事が、世の中を浄化してゆく根本ではないのかと思ひます。

我々は、神の子だから本来はきれいなのです。そのきれいな自分が、日頃生活をしていゝ中で、埃をかぶるから、鏡に自分を映し出して、さあ新しい出発をしよう、というのが神社参りです。だから先程参拝しました護国神社の本殿にも、鏡があるのだと思ひます。こうして皆様がお集まりになり、文字通り命がけで日本を守っていただいた御英霊

にお礼を言う。この護国神社に鎮まる御英霊が、物凄く広く大きな世界で、命を賭けて守って下さった今の日本に対して、我々はうっかりすると、喜びの足りない幅の狭い生き方をしているのではないかと反省させていただくのです。そして鏡に自分を映し出し、その思いに対して「自分はどうだったかな。もう少し頑張らさせてもらおう」と、理想に向かって自分を照らし出すところに、反省という世界がある。そして理想を掲げた時に、努力という世界が出てくる。こういう思いの循環が始まる気がします。

非常に生意気な話をさせていただきましたが、お許し下さい。ありがとうございます。（拍手）

本費全額助成 第五回

（以下に詳細な案内文が記載されているが、文字が非常に小さく読み取れない）

奉賛会講演集 第五輯

平成四年三月一日発行

発行者 三重県護国神社奉賛会

〒514 津市広明町三八七番地
三重県護国神社内

